めあてを高く できるまで やれ

岡崎市立梅園小学校 校長室だより12

2年10月 5日 令和 こん どう ふみ ひこ

沂 文 彦



ボランティア活動を考える2

んの活性はこのけて

樹木医の今枝 正晴さんが、7月30日・8月6日に本校のシンボルツリーである クスノキ「くすくん」の活性化に向けて治療していただいた後、9月は4回来校して 活性化させる作業に取り組んでいただきました。私には8月のくすくんの状態からの 変化は分からなかったのですが、「治療を始めると現状維持状態になるはずなのだが、 8月よりも悪化している」と今枝さんは言われ、原因をあれこれと探すことになりま した。これまでの治療経験から、都市ガス埋設管のガス漏れや水道管からの漏水が原 因のこともあったとのことでした。そこで、本校と梅園こども園のガス管や水道管の 状況を確認しましたが、くすくんの周りには埋設されていませんでした。今年の酷暑 の影響が出ているのではないかとの結論に達し、今後の様子を見守ることになりまし た。くすくんについて調べる中で、過去の枯死寸前と復活した様子もわかりました。

〇枯死寸前のクスノキ「くすくん」・蘇生したくすくん 開校120周年記念誌より

クスノキ「くすく ん」は、大正4年(19 15)年11月10日 に大正天皇の即位の 礼に合わせて植樹さ れました。昭和57 年(1982)年頃に 枯れかけたことがあ り、学区の支援や公 園緑地課の技師の手 当てを受けて蘇った と言われています。

新聞記事には、く すくんに栄養剤を注 入してもうまくいか なかったとの記述が あります。

確かに現在のくす くんは、枯死寸前の写真の方向に向かっているように 感じます。新芽は出ているものの、枯れ枝・枯れ葉も 多くあります。新芽に安心していましたが、今枝さん には、「個々の小さな変化だけを見て安心するのでは なく、全体を大きくとらえて見なければダメだ」と言 われました。まさに、学校教育・学校運営にも通じる



【昭和57年5月10日の新聞】



【枯死寸前のくすくん】



【蘇生したくすくん】

ものがあります。今枝さんの言葉に「校長たるもの」と言われているようにも感じました。蘇生したくすくんのように葉が多く茂った状態に戻るときが楽しみです。くすくん活性化作業の様子を紹介します。全て根を確認し大切にするため、手作業です。

○9月9日(水) くすくんの幹近くの根の活性化

くすくんの幹近くの土 壌を深さ15cmほど根 を切らないように掘っ て、木炭ユーキ(土壌改良 資材)を2~3割程度混 ぜて埋め戻す作業を行い ました。専用工具での丁 寧な作業に驚きました。



○9月11日(金) くすくんの東側の根の確認と土壌改良

くすくんの東側の根の 状態を確認しながら、90 に間ほどの穴を掘り、木炭ユーキ(土壌改良資材)を2 ~3割程度混ぜて埋めませて ず作業を行いました。まませまり 大い根は見当たりませんでした。この日は、作業も の様子を見学する学した。 ありました。土壌改良資材



や根や葉の様子など、多方面から質問をしっかりできる子供が多く、感心しました。

○9月18日(金) くすくんの幹近くと東側の地中に酸素を行き渡らせる作業

くすくんの幹近くには、 長さ40cmほどの孟宗竹 を48本打ち込みました。 竹を通して酸素が行き渡 るとのことです。同じよう に、くすくんの東側には、 1.5mのパイプを1mほ ど打ち込んで空洞を作り、 その中に土壌改良資材ビ



ーナスライトを入れていきました。パイプを1m打ち込むことは大変な作業です。脚立の上から打ち込まなければなりません。また、力任せに打ち込んでいるのではなく、太い根を切ってしまわないように、地中の様子を感じながらハンマーを打っているそうです。部活動開始前のわずかな時間にも子供たちが作業の様子を見学していました。

〇9月28日(月) くすくん東側の土壌改良

根を切らないように深さ90cmほどの穴を、くすくんの東側に大きく掘り、木炭ユーキ(土壌改良資材)を2~3割程度混ぜて埋め戻す作業を行いました。他の樹木の根と見分けながら、くすくんの根がしっかり活性化するように土壌改良がおこなわれました。地道な作業です。



